

## 2. 予防的社会保障における防災

わが国の社会保障は、人口減少もあって全体のコストや若い世代の負担など、今後の健全な継続を維持していく上で、多くの課題が顕在化してきています。そこで重要なことは、この種の政策には事後と事前がある中で、現在は事後的な考えになっていて若い世代にとっては、不公平感という思いを感じています。加えて負担に見合ったものが自分に還元されるのだろうかという不安というか不信感にもなって、保険への加入率の低下にもなっている面が否定できないのだと思います。若い世代に関する社会保障にかかわる問題として、正規雇用比率の低下、会社意識が薄れている、所得格差が増大しているといった現状で、多様なリスクが出てきています。つまり、このままの状況であれば最初のスタートの遅れがそのまま継続し、次世代へそのまま継承されるということになる可能性があります。それを抑制するには、積極的な雇用政策、教育、住宅といったことに重点を置いて投資していく必要があります。この種の投資は、インフラと違って即効性はないかもしれませんが、じっくりと体力をつけることには必須で、将来の国力にもなり、優れた人材が輩出する背景にもなる重要なことだと考えます。同時に、これに限らずこれまでのように収入が拡大し続ける高度成長期や人口増加の時代とは異なる新たなストックの分配も考慮することになると思います。これまでのことは予防的社会保障ということになるわけで、高齢になるまで待っているのではなく、それを見据えての事前のサポートが必要で、住宅、土地といった不動産や教育といったこれまで個人任せの部分を政策的に改革すべきことがあります。そして、医療面でもサービスやケアというような新たな領域にも配慮し始める仕組みができていないといけないと思います。加えて、なんといっても生活環境も、利便性第一の量から質への転換を図る必要があります。これまで都市政策は行政中心で全国型の金太郎飴、まちづくりも民間任せで局所的、環境政策は経済的効果が無いので後回しということではなく、これらを一体として安全、安心な居住域を創生していかないと、利用した先から荒野化していくことになり、自業自得の災害を享受することになってしまいます。目先のことで何とかがやり過ぎて先送りすることは、いずれはどうにもなることになることは明らかです。予防的な対処は防災にも通じることで、そのとき何とかなるというのはなんともならないことでもあります。つまり、先を見ての回避や対応は、予防的な効果にもつながり、結果的には支出を節減して財政的な安定化を図ることにもなり、生活環境も公平で、安心安全なものに持続させる意味でも計画的であることの重要性がここにあります。自然災害は、無いに越したことがないわけで、対応は無駄な出費にもなります。可能な限り、被害の最小化を図り、これまでと異なる発想での投資が求められていると思います。